

# 4

## 地域の声かけが「空き家問題」を 考えるきっかけになります。

「家のことを考えないと」と分かっているけど、今は困っていないから、と先延ばしにしがちです。地域で色々な人が声かけすることで気づき生まれ、家のことを専門家に相談するきっかけとなることがあります。また、専門家に相談した方がいいと周りが気づくこともあります。

家は個人の財産ですが、地域にとっても大事な資産。空き家が増えて地域の価値が下がってしまわないように、地域の力で空き家の発生を少しでも防ぎましょう！



一般社団法人大阪府不動産コンサルティング協会は、  
皆さんの「気づき」を専門家につなぎ、  
問題解決するためのネットワークづくりに取り組んでいます。

電話相談窓口「住まいの相談・つなぐダイヤル」を設置しました。  
「気づきのあった方」や「気づきを見つけたい方」の相談はもちろん、  
地域で相談の輪を広げたい方々も、つなぐダイヤルをご活用ください。

住まいや空き家の電話相談や出前相談・「気づきセミナー」のご依頼など

住まいの相談・つなぐダイヤル

06-6210-3740 または 06-6261-3340

平日 午前10時～午後4時



# 地域の力で 空き家を防ぐ

地域空き家予防ネットワーク



# 1 空き家のまま放置されるにはさまざまな要因があります。

主な要因(例)

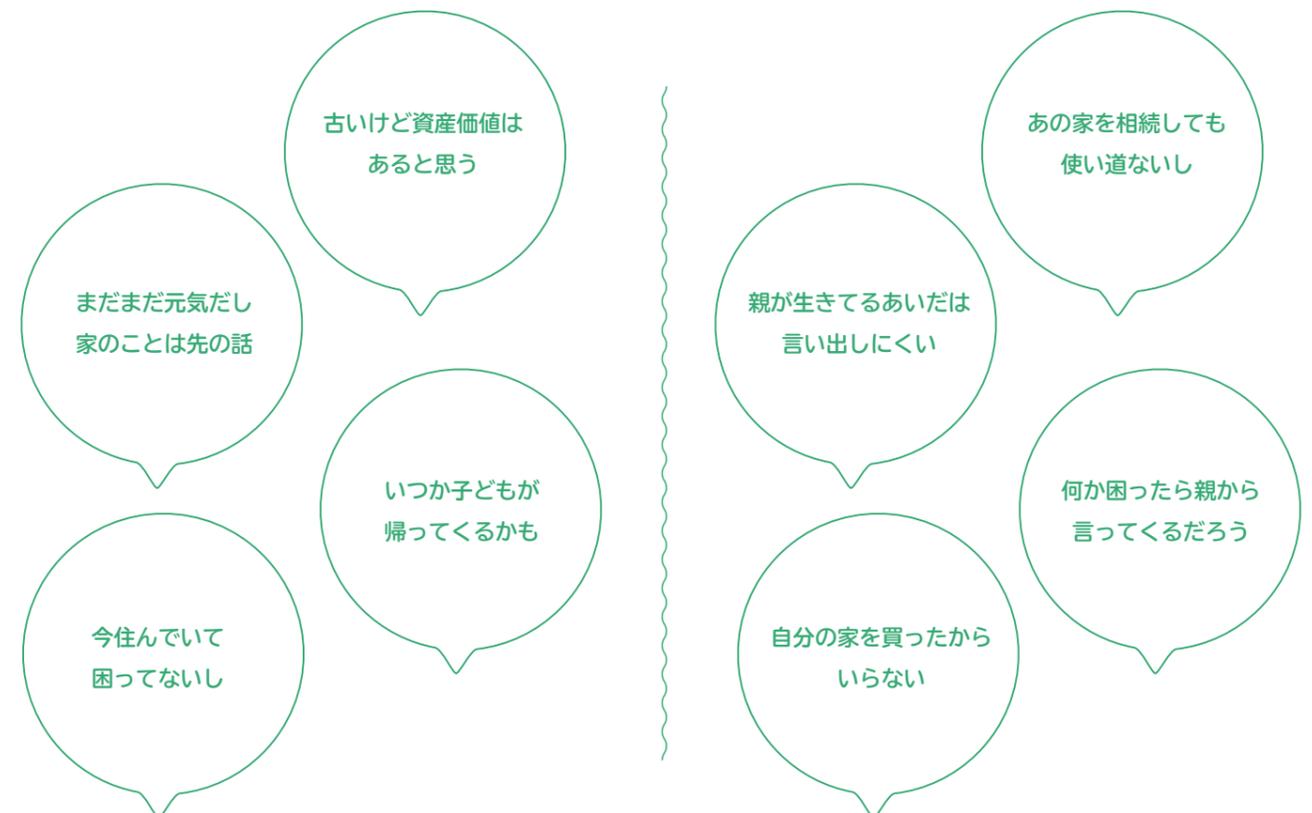
認知症	借地	共有
認知症になってしまうと様々な取引に支障がでてくる。	地主との話し合いに時間がかかる。	所有権が複数名義になっているため権利者の調整に時間がかかる。

# 3 「家」の問題を誰が言い出すのか？それが問題なのです。

家のことについて問題意識がなかったり、話さなきゃと思っても言い出せなかったり…。家庭によって事情は様々ですが、誰かが言い出さなければ始まりません。そして、家の話を持ち出されたときに「今そんな話をしなくても」「家の話はしたくない」と言わないで、話し合いを受け入れることが大切です。家族のことを思うからこそ、あとで困らないように家の話をしましょう。



お互い自分からは言い出さない…



親世代

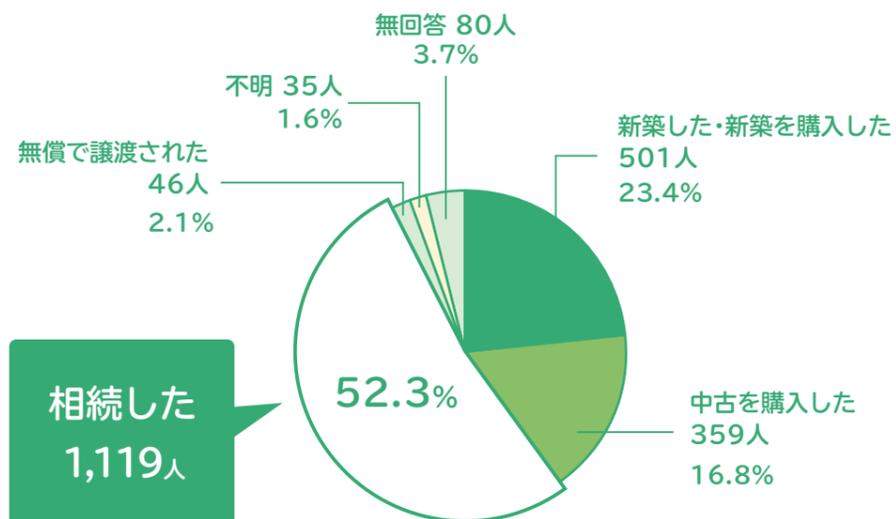


子世代

# 2 相続は転換点です。

空き家になるきっかけで多いのが「相続」です。相続で初めて家のことを考え、なかなか解決策が見つからないまま空き家となり、困っている人も少なくありません。相続の前から家のことを話し合えば、空き家になって困ることが減ります。早めの取り組みが大切なのです。

住宅(空き家)を取得した経緯 (n=2,140)



出典:国土交通省「平成26年空家実態調査」



家のことは、時に「手間」と「時間」がかかります。早めに手を打つことで空き家にならずに済むことがあります。